

天文学とプラネタリウム

第149回



今月のお題

約束の地

「宇宙と芸術」展で天プラグッズ販売中です!



約束の地、館山に遊びに行ってきました。



www.tenpia.net

高梨直紘 (東京大学)

平松正顕 (国立天文台チリ観測所)

館山市は千葉県の南端に位置し、東京から車で約2時間の距離。東京湾の出口にあり、風光明媚な土地柄で、特に海のレジャーに適した場所です。バブルの時期にはリゾート開発が進んだようでしたが、今ではそれも落ち着いた、良い意味で平均的な地域のひとつと言えるでしょう。なぜここが約束の地なのか?

東京から離れているだけあって、星空も綺麗です。もちろん、ハワイのマウナケアやチリのアタカマ砂漠に比べれば劣りますが、東京の星空に見慣れてしまった人には、十分素晴らしい。カノープスの別名“布良星”の名前で知られる布良も館山からほど近い場所にあり、天文ファンにも馴染みのある土地と言えるかもしれません。でも、そういった星空の魅力だけで館山が約束の地になったわけではないのです。

館山の魅力はなんとと言っても釣りです。しかも、防波堤からのお手軽な釣り。アジ

にイワシ、季節になればイナダにソウダガツオ。夏のキスにマゴチ等々、おいしい魚と気軽に会える土地は魅力たっぷりです。天文と関係ない? そう、その通り、これはさっぱり関係ありません。筆者(高梨)の個人的な趣味です。しかし、そんな一見関係なさそうな組み合わせを生活の中に取り入れる事こそが大事なのではないかと、最近強く思うようになってきました。

星空、あるいは宇宙と共にある暮らしの価値は、それ以外の要素との組み合わせによって多様な価値を生み出し、相対化することができます。天文学の価値を社会に対して発信していく事を考えるのであれば(天プラはそういう事を志向しているわけですが)、なおさらのこと、ベクトルの違う他の価値観と相対化して語れる事が望ましいのではないのでしょうか。理想を言えば、そこで新しい暮らしのあり方を確立することです。人口が漸減する日本においては、2箇所居住が当たり前の時代が来



約束の地「館山」の海の様子。日が暮れると星がけっこう綺麗に見えます。

るかも知れません。そうなれば、生活費を稼ぐための暮らしと、自分らしさを実践するための暮らしを別々の場所で営む可能性もあるでしょう。そのための候補のひとつが、私にとっては館山であるわけです。

そんなことを改まって言わずとも、すでに実践されている方も多い事でしょう。暮らしのあり方が多様であればあるほど、豊かな星空の文化が日本に華開くことと思えます。皆さんの約束の地はどこですか? 川の流れるが留まることを知らぬよう、時間は流れるばかり。忙しい日常から少し離れて、一緒に妄想してみませんか?

149

149